第5回　役員訪問　聞かせてください

聞き手／常任理事　藤井美穂

・生年月日　昭和17年2月6日
・出生地　小樽市
・出身大学　昭和大学医学部
　昭和44年卒　耳鼻咽喉科
・好きな言葉　鬼手仏心

●30年にわたる巡回健診

藤井：2003年に「ノバルティス地域医療賞」を受賞されていらっしゃいますね。

柳内：何も特別なことはしてないんだけどね…。

昭和52年から道北地区（北は稚内、東は知床半島）の小・中学校を巡回健診しています。この地域には耳鼻科医が少なく、満足な健診が受けられない子どもたちがたくさんいました。礼文、利尻などの離島では、各自で病院に行くよう指示すると、家庭に負担を強制してしまうことになるからね。

なかには耳垢で鼓膜が見えない子も多く、健診の趣旨から外れるかもしれませんが、耳垢を取ってから診察を行うこともありました。

藤井：住民のニーズを汲み取ってこその地域医療ですね。昭和52年から現在まで30年間、巡回健診を継続されている先生にはつくづく頭が下がります。

それもいわゆるへき地が多いですね。

茶道は奥様と共通の趣味。釣りやラグビーなど多彩な趣味をもつが、時間が割けないのが悩み。

柳内：自分では長く続けたとは思いません。行く先々で「道の駅」巡りを楽しんでいるので、小旅行しているみたいなものですね。「道の駅」の全道制覇が目標です（笑い）。

●養護学校には理想の教育がある

藤井　巡回健診に並行して、旭川養護学校の校医を30年間兼任されているんですね。

柳内：他に引き受ける先生がいなかっただけですよ。

藤井：身体が不自由な子どもたちの健診は、健常児のそれに比べて時間も労力もかかりますでしょう？

柳内：障害がある子どもたちは不随意運動や筋緊張があるなどさまざま。とにかくじっとしていることが難しい。特に車イスの子は身体の向きを変えるだけでも大変ですけれど、養護学校の先生方が適切にサポートしてくれるので、スムーズな健診が可能です。

先生方にはつくづく感心します。全生徒一人ひとりの名前は勿論、個性を把握しており、一人の子どもに2～3人がかりで対応するんですから。

校医の経験を通じて、養護学校の先生方のこうした姿勢こそが、本当の教育のあり方ではないかと感じました。健常児の小・中学校でもこうあってほしいものです。

●静（茶道）と動（ラグビー）

藤井：ご趣味にお茶（裏千家）、ラグビーとありますが。

柳内：ともに大学時代からの趣味です。

お茶は根津美術館（東京・青山）の稽古場に6年間通っていました。

男性の場合、お茶会が催される度に茶懐石の下ごしらえから茶器の用意まで、下働きとして手伝いに駆り出されます。使用する茶碗が国宝級の物ばかりで、扱いは気が気じゃありませんでしたね。

北海道医師会　常任理事　柳内（やない）　統（おさむ）

　ここ最近は茶道から遠ざかっていますが、当時の名残かな、長時間の正座も楽にこなせます。

藤井：物腰柔らかい先生とラグビーはイメージが結びつかないですね。

柳内：ラグビーをやってる人間に柔和な奴なんていないよ（笑い）。

　ポジションはフォワードでした。卒業後も現役を続け、旭川の社会人チームに所属しました。学生時代は試験官を務めるラグビー部の先輩に解答を教えてもらって大変お世話になったものです（笑い）。

　現在は、旭医大ラグビー部の監督としてラグビーに携わっています。東日本医科学生総合体育大会で我がチームがあっさり負けた時は、本当に悔しかったですね。

藤井：先生の日焼けは、監督業の証しですね。

柳内：はい。道医の仕事が無ければもっと打ち込めるんだけどね（笑い）。

●地域に根ざした医師の姿が、若い医師の目標になる

藤井：今後の医師会は何に焦点を合わせ活動すると良いでしょう？

柳内：地域の医師を確保することが急務でしょう。偏在が生じるのは労働過重などの問題ももちろんありますが、根本は自らの医療行為に対してモチベーションを維持することが難しくなっていることがあるように感じます。

藤井：若い先生の中にも地域医療をやりたいというのはいますが、実践してる人はそう多くない。これはプライマリケアの目標とする医師像がないからだと思うんです。柳内先生がモデル像ですね。

柳内：私だけではありません。多くの先生方が、地域に根ざした医療を地道に行っていらっしゃる。研修医を含む、若いドクターの目標となる医師像がそこにあるかもしれませんね。同時に地域医療を支える医療制度が求められます。

藤井：先生が医師会活動に参画されて12年。学校保健、公衆衛生、介護保険などをご担当されてきましたが、在任中は地域保健法や介護保険法など制度上の問題点が多い時期でもありましたね。ずいぶん大変だったんじゃないですか？

柳内：好きでやってただけだよ（笑い）。

インタビューを終えて

ゆったり、おおらかな先生

常任理事　藤井美穂

　先生のご性格はゆったりとされていて、インタビューの時間もいつもより「ゆっくり」流れていたように感じました。来年3月で旭川日赤を定年退官されるとのことですが、「やり残した事がたくさんある。まずは摂食・嚥下を深く掘り下げたい」と語る先生の瞳は輝きに満ちていました。